



豊田市総合野外センター
令和2年2月29日 30号

新型コロナウイルスの猛威が治まりません。先ごろ、全国の小中学校、高等学校、特別支援学校へ休校措置の要請が発表されました。時期や内容など、大きな波紋を投げかけるものでしたが、予防に向けて大きく前へ踏み出したと受け止めました。卒業式や入社式、さらには退職にかかる催しなど、人生の節目にあたる取組の中止は、ほんとうにお気の毒なことです。国をあげて取り組まねばならないときが到来したと思います。

六所の事業や利用にも、影響が出ています。このことは、次号でお伝えします。

第3回青少年育成委員会

2月15日(土)、本年度3回目の「青少年育成委員会」を開催しました。この会は財団の青少年部が扱う催事や事業について、その内容や効果について評価する目的をもちています。



委員会では、委員のみなさんが実際に催事や事業を参観した評価をし、効果や改善について話し合います。いわゆる、外部評価、モニタリングという意味合いがあります。

野外センターの事業では、1月11日(土)から13日(月)二泊三日に渡って実施した「山の子里山学級②」が対象となりました。その評価内容は、およそ以下のとおりです。

- ① 野外活動のねらいに合致している
- ② 参加者への支援が手厚い
- ③ 参加費は妥当な額である
- ④ 活動内容をリーダー的な子どもに委ねる方法もよいのではないか
- ⑤ 過去の「山の子学級」のような継続的な取組も検討したい
- ⑥ 10年20年のスパンで継続し、子どもだけでなく指導者や地域の方々を育成することも視野に入れたい

このうち、以下のことについての実際と今後の対応について説明します。

④…参加者の年齢構成を考慮してグループを編成し、年長者にリーダーとして活躍する機会をつくっています。今後も、活動の場面を想定し、参加者の積極的な取組を支援する方法を研究していきます。

⑤…過去には、年間、あるいは季節をまたいで長期に渡り、同一メンバーで「山の子里山の活動」に取り組んだこともあります。この方法は、「長期・継続的・同一参加者」というメリットがあり、長い期間で子どもの成長を見守ることができます。その一方で参加者や家庭にかかる負担が大きいことから、現在の形になりました。活動の目的と方法をよく吟味するとともに過去の財産(実績)を有効に活用していきたいと思います。

⑥…⑤の内容と関連すると思います。現在の取組を継続しつつ、長期的な目標設定をすることが求められます。また、外部指導者については、活動の支援という観点からだけでなく、指導者自身を育てる方策についても検討していきたいと思えます。

以上のように、この委員会では、現場視察に基づいた具体的な評価や指摘

がなされます。今後も「PDCAサイクル」に鑑み、活動に生きる評価、評価を活動に生かす姿勢をもち、野外センターの運営に努めていきます。

キャンプインストラクター養成講習会

2月21日(金)から23日(日)まで二泊三日に渡って、愛知県キャンプ協会主催の「2019年度キャンプインストラクター養成講習会」が総合野外センターで開催されました。この講習会が六所で開かれるのは、初めてのことで



講習会の風景

<第1日目> 2/21(金)

- 開講式
- 講義、実習「こんにちは」
 - ・出会い、自己紹介
- 実習「豊田の自然を感じる」
 - ・野外センターのフィールドへ
- 講義「キャンプの特性」
 - ・キャンプの意義、組織の理解
- 講義「キャンプの指導」
 - ・人間、自然の理解
- 実習「夜の自然を感じる」
 - ・ナイトプログラムの実施
- 実習「一日の振り返り」
 - ・グループワーク

<第2日目> 2/22(土)

- 講義「危険予知」
- 講義 実習「キャンプの基本的な生活技術の習得」
 - ・テント設営、器具使用とメンテナンスの方法
- 講義 実習「野外炊事」
- 講義 実習「キャンプの技術向上をめざして」
 - ・ダッチオーブンの使い方、ファイヤーの井桁設営
- 講義 実習「集いの演出」
 - ・ナイトプログラム
- 実習「一日の振り返り」
 - ・グループワーク



六所のフィールドワーク



井桁組みの実習



キャンプの魅力と可能性、再発見

ボーイスカウト 野外活動

2月8日(土)、9日(日)の一泊二日、豊田市内のボーイスカウトカブ隊のみなさんが活動に取り組みました。

本号のタイトルバックの写真は、退所式の様です。



暖かい日が続く中、この二日間は実に寒い日でした。集いの広場からは、遠く御嶽山が望め、場内には冷え冷えとした寒風が抜けていきます。

「暑さ、寒さはボーイスカウト活動にぴったり」という指導者の励ましもありました。とはいえ、シーズンオフのさなか、外での活動は厳しいものです。そんな中、がんばり抜いたカブ隊のみなさん、ほんとうにありがとうございました。再会をお待ちしています。

<第3日目> 2/23(日)

- 講義 実習「安全管理と事故への対処」
 - ・AEDの使用法、救命講習
- 試験
- 講義「キャンプの使い手として—今後への期待—」
- 閉講式
 - ・合否発表、まとめ

ご覧のように、三日間みっちりぎっしりのスケジュールのもと、内容充実の講習会となりました。

特色ある取組の様を写真で紹介いたします。生き生きとした講習会の実際がみなさんに伝わるとよいのですが。



講習会の風景



ナイトプログラム



AEDを用いた救急救命講習



テント設営・撤収

魂知和 二月十九日は、雨水。降っていた雪は雨に変わり草木も芽吹き始めるころと言われる。しかし、野外センターには雪がない。先人によれば、年末や年始めには六所山や炮烙山の山頂が白くなったものだったが▲暖冬と報じられ続け、とうとう春の足音が確かに聞こえる時節に入る。梅は咲き誇り、桜の芽吹きが始まり、啓蟄のはるか前にカメムシが動き出した。季節の変化に敏感な動植物は、人間のつくった「暦」や「例年、平年」などという常識をはるかに越え、自然の機微を敏感にとらえるようだ▲一面に張った氷に石を投げた。それが、小気味よく跳ね返された。ざつとざつと霜柱を踏んだ。長靴よりもはるかに深い雪の道を歩き、学校へ着いたら靴下は水浸しだった。わずか半世紀前の体験で、明らかに今の寒さとは、質も量も異なる▲地球の温暖化が叫ばれ、温暖化によって水没の危機に瀕する国もある。気候の変動はもっと大きなスパンの中で、気の遠くなるような時間を経て起こってきた。それが、わずか半世紀の間に大きな変動を迎えている。さまざまな原因が究明され、対応も進む。しかし、この異常な早さに対応しきれぬのだろうか▲梅の開花やカメムシの挙動は、一事象として「珍しい」で済むが、常態化すれば、日本の四季もなくなる危惧もある。危惧が杞憂で終わることを願う。